

柔道整復学学位プログラム（博士後期課程）										
養成する人材像	柔道整復学に関する卓越した研究能力と高度な教育・指導能力を兼ね備え、国際的に活躍できる人材を養成する。博士前期課程で培った能力を基盤に、独創的な研究を通じて新たなエビデンスを創出し、学術の発展と人々のwell-beingの向上に貢献する「自立した研究者」、ならびに次世代の専門家を育成する「高度な教育者・指導者」を目指す。									
教育研究の特徴	<p>本プログラムは、修士課程で培った専門知識及び研究遂行力を基盤として、博士論文の作成過程を通じ、自立して独創的研究を企画・推進する能力の育成を重視している。研究課題の独自性を明確にし、理論的・実証的な検証を行うとともに、その成果を国内外に発信できる高度な研究力の修得を目指す。</p> <p>また、国際的な視点から研究活動を展開できるよう、国際共同研究への参画、国内外の学会発表、海外における研究活動等の機会を通じて、国際的に通用する研究力と研究ネットワークの形成を図る。</p> <p>さらに、本プログラムの教育課程は、厚生労働大臣が指定する「柔道整復師専科教員講習会」に係る指定科目を含む構成としており、当該講習会としての指定を申請する予定である。これにより、所定の要件を満たした場合には、専科教員としての資質に資する体系的な学修が可能となる。</p> <p>本プログラムでは、柔道整復学の高度化と発展を担う高度専門職業人及び将来の研究者の育成を目的として、以下の3領域を教育研究の柱として位置付け、学生は自身の研究領域に応じて履修科目を選択する。</p> <p>&lt;教育研究の柱&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先端・学際研究領域（医学・スポーツ医科学・工学等との連携のもと、運動器の健康を予防からリハビリテーション、パフォーマンス向上まで包括的に探究）</li> <li>・国際的リーダーシップ涵養領域（国際的視点からの研究活動や協働を通じて、グローバルに活躍できる能力を育成）</li> <li>・次世代教育・研究創造領域（教育工学やAI等の先端技術を活用し、柔道整復教育の高度化と将来の研究者・教育者養成を探究）</li> </ul> <p>&lt;柔道整復師専科教員講習会（指定予定）に係る指定科目&gt;</p> <p>本学位プログラムは、厚生労働大臣が指定する「柔道整復師専科教員講習会」の修了認定に必要とされる教育内容に対応した教育課程を編成するとともに、「柔道整復師専科教員講習会」としての指定を申請する予定である。</p> <p>当該指定を受けた場合における講習会の修了認定は、指定科目の履修及び単位修得に加え、所定の実務経験並びに修了試験等の要件を満たした者に対して行われる。</p> <p>なお、本学位プログラムにおいて柔道整復師専科教員講習会の指定科目として位置付ける科目は、以下に示す水色の科目である。</p>									
修了後の進路	教育系大学・学部・教職大学院等の教員／国内外の教育研究機関の研究者／教育行政機関職員／社会教育・生涯学習機関職員／NPO等の教育関連組織職員／一般企業人など									
科目区分	1年次		2年次				3年次			
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
大学院共通科目 (必修)	身体総合学術特論	2								
専門科目 (選択)	柔道整復学研究 方法論特講	2	スポーツ外傷・ 障害評価法特講	2	柔道整復教育学 特講実習（教育）	2	柔道整復教育学 特講実習（教育）	2		
	柔道整復学特講	2	医療者教育工学 特講演習	2						
	柔道整復教育 科学特講	2	柔道整復指導者のための教育方法と教育行政特講	2						
	柔道整復指導者のための教育原理特講	2	柔道整復指導者のための疾病と障害特講Ⅱ	2						
	柔道整復指導者のための教育心理特講	2	柔道整復の理念と保健医療福祉特講	2						
	柔道整復指導者のための人体の構造と機能特講	2								
	柔道整復指導者のための疾病と障害特講Ⅰ	2								
	海外柔道整復学 実習	2	海外柔道整復学 実習	2						
研究指導科目 (必修)	柔道整復学特別 研究Ⅰ	2	柔道整復学特別 研究Ⅰ	2	柔道整復学特別 研究Ⅱ	2	柔道整復学特別 研究Ⅱ	2	柔道整復学特別 研究Ⅲ	2
履修方法	次の履修方法により、12単位以上を修得すること。 (1) 大学院共通科目: 2単位 (2) 保健医療学研究群専門科目: 柔道整復学学位プログラムの科目から4単位以上 (3) 保健医療学研究群特別指導科目: 柔道整復学特別研究Ⅰ～Ⅲの6単位 ※研究指導教員が担当する科目を選択する。									
修了要件	3年以上在学し、各学位プログラムが定める修了に必要な授業科目を12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。									
その他の学修・研究	学会発表	論文投稿 学会発表	論文投稿 学会発表	論文投稿 学会発表	論文投稿 中間発表会 学会発表	学会発表	博士論文作成 博士論文審査 最終試験 最終発表会			